

1 調査の背景と目的

多様な生態系の育成や人と自然とのふれあいの創出など、里山が有する様々な機能が認識され、荒廃しつつある里山に対し、各地で保全の取り組みが始まっている。

里山の荒廃は、生物多様性保全上の危機のひとつとして従来から問題とされてきたが、「新・生物多様性国家戦略」（平成14年3月決定）では、“里地里山の保全と持続可能な利用”が生物多様性保全のための主要な施策テーマとして特記され、その認識が深められることとなった。

また、「都市再生本部」（平成13年5月設置）でも、“大都市圏における都市環境インフラの再生”を緊急に取り組むべき都市再生プロジェクトとし、その中で里山などまとまりのある自然環境の保全施策の強化を掲げている。

このような背景に基づき、生物多様性の確保にとって重要な里山の保全に対する行政対応の現状を把握すること、そして特に自治体独自の里山の保全を目的とした制度・事業について、現在までの実績を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

なお、この調査において里山とは、市街地内、あるいは市街地縁辺部において、かつての農用林として生業の場として維持されてきた樹林空間、二次林とした。